

令和4年度第1回基幹相談支援センター連絡会 議事概要

- ・日 時：令和4年9月5日（月）14時～16時30分
- ・会 場：職員キャリア開発支援センター 研修ホール
- ・出席者：44名

1 基調講演 「地域における基幹相談支援センターの役割について」

(1) 講師：特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 代表理事 菊本 圭一 様

(2) 資料：【資料1】地域における人材育成と基幹相談支援センターの役割について

【資料2】相談事業の複数事業所による協働モデル

(3) 内容： 基幹相談支援センター、主任相談員としてどのような方向を向いて仕事をしていくのかという方向付け、本県における相談支援の体制整備に求められる人材育成について、現状から見た、本県に足りている部分、足りてない部分をグループワークに向けて問題提起を行った。

また、相談支援事業の複数事業所による共同モデル、基幹型センターとして地域の相談体制どう作っていくのか、モデル事例を元に説明を行った。

2 グループワーク 「地域における人材育成と基幹相談支援センターの役割について」

(1) 進行及び講師：特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 代表理事 菊本 圭一 様
特定非営利活動法人ふじさわ基幹相談支援センター えぼめいく

所長 吉田 展章 様

(2) 資料：【資料3】令和4年度第1回神奈川県基幹相談支援センター連絡会グループワーク
【資料4】(別添)演習シート

(3) 内容： 来年度、総合支援法、児童福祉法の改正があり。加えて障がい福祉、介護保険、医療の3つの報酬改定、もあり、多方面で改正改定が行われる。その中で、地域相談体制を作る相談支援の要と言われている基幹相談支援センターとしては、それらの変化に対応すべく、それらに精通したところに繋がるツールを持つ必要がある。グループワークを通じて横のつながりができたらと考えている。

3 まとめ

新型コロナウイルスの影響を受けて、3年間、基本的には書面開催で、実施できてもリモート開催であった。今回対面のグループワークを実施することができ、研修効果の高さを実感している。地域の実態に合った基幹として、地域に必要な研修を考え、実施していくことが今後も求められると思う。引き続き、関係機関のつながりを大切にした地域の相談体制づくりに尽力していくための機会となればと思う。

令和4年度第2回基幹相談支援センター連絡会 議事概要

- ・日 時：令和5年1月20日（金）13時15分～16時30分
- ・会 場：職員キャリア開発支援センター 研修ホール
- ・出席者：47名

1 シンポジウム 「わが街の相談支援体制の歩みとこれから」

(1) 講師・進行 特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 代表理事 菊本 圭一 様

(2) 発表者 ・横浜市障害施策推進課相談支援推進係 太田 祐子 様

・逗子市障がい福祉課 保川 真樹 様

・伊勢原市障がい福祉課 平井 礼子 様

・伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹 清水 実千 様

(3) 内 容 人口規模が異なる横浜市、伊勢原市、逗子市が、それぞれの市町村が抱える地域課題から、現在、今後の「地域づくり」や「市町村の相談支援の体制整備」の取り組み等について事前課題の内容を元にお話しいただいた。

なお、伊勢原市においては、独自の取り組みとして、指定一般相談支援事業所を委託せずに直営とすることで、地域を市が主体となって育てていく取り組みを行ってきた経過があるため、市の姿勢や、考え方、効果等を発表いただいた。

2 グループワーク 「わが街の相談支援体制の充実について」

(1) 講師・進行 ・特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 代表理事 菊本 圭一 様

・特定非営利活動法人ふじさわ基幹相談支援センター えぼめいく

所長 吉田 展章 様

(2) 内 容 横浜市、逗子市、伊勢原市の発表を受けて、それぞれ感じたことを元に、自自治体の地域の課題や、特色を活かした取り組み等について共有し、基幹相談支援センターの役割や、今後、より相談支援体制を充実させていけるようグループワークを実施した。

3 まとめ

横浜市、逗子市、伊勢原市の発表では、地域づくりにおける各市の取り組みの状況について発表いただき、出席者からは「とても刺激になった。」「参考にして、自自治体でも取り入れていきたい。」などといった声があり、充実したものとなった。

グループワークでは、前回に引き続き、活発な意見交換がされており、各々の地域課題や取り組み、いかに地域を盛り上げていけるかを考える時間となった。

引き続き、地域の体制づくりをテーマとした連絡会を開催していきたい。